

だ美 よ術 り館

contents

疾走する日本車 ^{アート}	
—1960年代を主軸とする国産車の軌跡—	[2～4]
日本車展への想い	[5]
イベント報告	[5]
平成22年度 福井県立美術館実技講座受講生募集要項	[6]
福井県立美術館ボランティア会員募集	[7]
福井県立美術館友の会 研修旅行報告・平成22年度会員募集	[7]
お知らせ・貸館情報	[8]
〔福井県立美術館もの知り事典②〕岩佐又兵衛	[8]
福井県立美術館 春の企画展案内	[8]

表紙：「疾走する日本車（アート） —1960年代を主軸とする国産車の軌跡—」展より

疾走する日本車^{アート}

1960年代を主軸とする 国産車の軌跡



トヨタ 2000GTボンドカー（1966年）

1960年代を主軸とする

疾走する日本車

アート

国産車の軌跡

2010年2月26日(金)～3月28日(日)

休館日 3月8日(月)、3月15日(月)

◎開館時間：

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

〔主催〕 福井県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

〔共催〕 福井放送株式会社

〔協賛〕 ライオン、清水建設、大日本印刷

〔協力〕 いすゞ自動車株式会社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、日野自動車株式会社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、三菱自動車工業株式会社、福井クラシックカー協会

〔企画〕 西村直樹(福井県立美術館)

◎観覧料：

一般800円／大高生500円／中小生300円
(30名以上の団体は2割引)

※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額(ただし障害者手帳等に介護印等のある方のみ)



トヨタ 2000GT ボンドカー(1966年)
トヨタ博物館

本展では、日本車が加速度的に成熟したといわれる黄金期——1960年代を主軸とする14台の実車の展示によってカー・スタイリング／デザインの変遷を追い、同時にそれらを生み出す過程のデザイン画、試作モデル、宣伝広告等を展示することによって、当時の日本の自動車文化を検証します。



日産 ブルーバード1400 4ドアデラックス(N510型)(1972年)
日産自動車株式会社 NISSAN Heritage Collection



トヨタ スポーツ800 (UP15型) (1965年)
トヨタ博物館



トヨペット コロナデラックス (RT40-D型) (1967年)
トヨタ博物館

我が国で初めて国産自動車が出し、驚きと羨望の眼差しをもって受け入れられてから約百年という時間が経過しました。いつしか自動車は、日本の各メーカーによって量産されるようになり、現在では世界有数の自動車生産国として、世界トップクラスの性能とデザインを誇るまでになりました。



トヨペット クラウンS (MS41-S型) (1965年)
トヨタ博物館



日産 フェアレディ Z432 (PS30型) (1969年)
日産自動車株式会社 NISSAN Heritage Collection



日産 シルビア (CSP311型) (1966年)
日産自動車株式会社 NISSAN Heritage Collection



日産 スカイラインハードトップ2000GT-R (KPGC10型) (1970年)
日産自動車株式会社 NISSAN Heritage Collection



三菱 ギャランGTO-MR(A53C-GR型) (1972年)
三菱オートギャラリー



マツダ コスモスポーツプロトタイプ
マツダ(株)総務部



ホンダ S500(AS280型) (1963年)
本田技研工業(株)総務部



いすゞ ベレット(PR20型) (1966年用試作車)
いすゞ自動車(株)藤沢工場試作部



日野 コンテッサ900スプリント (1962年)
日野オートプラザ



日野 コンテッサ1300クーペ(PD300型) (1965年)
日野オートプラザ

■ 関連イベント (申込不要)

◎ 座談会

「1960年代日本車のデザイン」

3/14(日) 14:00～15:30

千葉匠 (カーデザイン評論家)

甲賀精英樹

(株式会社八重洲出版オールドタイマー編集部)

西村直樹 (福井県立美術館)

参加
無料

◎ 講演会

「福井県のデザイン」

3/21(日) 14:00～15:00

講師：戸田正寿 (アートディレクター)

◎ 私のクラシックカー披露会

2/28(日)、3/7(日)、3/14(日)、

3/21(日)、3/22(月・祝) 10:00～15:00

協力：福井クラシックカー協会

参加
無料

参加
無料

◎ 担当学芸員によるギャラリートーク

3/7(日)、3/28(日) 14:00～

※本展チケットが必要

この春、いよいよ当館で「疾走する日本車^{アート} —1960年代を主軸とする国産車の軌跡—」展を開催することになり、担当者としては感無量です。私は彫刻が専門の学芸員ですが、1960年代の名車は走る彫刻と思えるほど優れた造形美を持ち、1台1台がプロフィールも含めて魅力に溢れたものと考えています。

これまで、国産車をデザイン的な視点から紹介した展覧会はほとんどありませんでした。そこで、60年代の名車といわれるメーカーの実車を一堂に集め、車マニアの人でもなかなか見る機会のない車をラインナップしたいと考えました。皆さん方の中には、美術館で実車を展示するというのを意外に思われる方もおられるでしょうが、私が、今回の展覧会で一番の核にしたかったのが日本車のデザインです。展覧会のタイトル「日本車」に、あえてアートのルビをふったのもこうした理由からです。

次に、一人でも多くの人にこの展覧会を観てもらうにはどうしたらよいのかと、美術館連絡協議会に相談しました。協議会の方で巡回先を募集していただいたところ、全国多数の美術館から反応がありました。平成21年度には、島根県立石見美術館が当館に先行して同展を開催、22年度以降も幾つかの美術館が開催したい意向のようです。

車のデザインの開発プロセスについて逐一調べていきましたが、当時、車のデザイナーというのはまだ数えるほどしかなくて、ほとんどの会社の車が、いろいろな仕事を兼ねた職人たちのデザインによるものでした。彼らを追跡しながら取材を重ねていきましたが、自社の車をアーカイブに残せる時代ではなく、資料といってもそう多くは残っていません。一番苦労したのは、メインでデザインをされた方が既に亡くなっておられて、サブ的立場の人を探していかざるを得なかったことです。取材の過程で、開発を始めた頃のスケッチが出てきた時には、跳び上がりたいほど嬉しい気持ちになりました。

本展では、自動車メーカー7社秘蔵の実車14台を一堂に展示します。いわゆる車マニアと呼ばれる人は、とりわけ60年代の車に魅力を感じておられるようです。《トヨタ 2000GT ボンドカー》や《日野 コンテッサ900 スプリント》など現存するのはこの一台だけという貴重なものもあります。

一般的なサラリーマンの初任給が1～3万円という時代にとっても自由に買えるわけではないと納得しつつも、一度は乗ってみたかったあの憧れの名車を実見しながら、日本の自動車文化に触れていただけたら幸いです。

一般的にサラリーマンの初任給が1～3万円という時代にとっても自由に買えるわけではないと納得しつつも、一度は乗ってみたかったあの憧れの名車を実見しながら、日本の自動車文化に触れていただけたら幸いです。

日本車展への想い

福井県立美術館主任学芸員 西村 直樹

「ポーラ・コレクション」 輝きはじめた女性たち ——旅する化粧道具——

《イベント報告》

当館では、平成21年10月24日(土)から11月23日(月・祝)まで、20世紀前半の女性たちの化粧やファッションに焦点を当てた「輝きはじめた女性たち」展を開催しました。会期中に行った主なイベントの内容は次のとおりです。

■講演会

〔演題〕輝きはじめた女性たち

〔日時〕10/25(日) 午後2時～午後3時(於当館講堂)

〔講師〕富澤洋子氏(ポーラ文化研究所研究員)

講演では、現在使われている化粧品の原型が登場する20世紀前半の女性のおしゃれ模様を中心に、画像や資料を交えながら解説していただきました。今では理



講演中の富澤洋子氏

解しがたいような当時の美に対する価値観や、女性たちが家庭から社会に羽ばたいていく様子、そして今も昔も変わらない女性たちの美への憧れなどの話に、参加者は終始熱心に聞き入っていました。

■結髪実演会

「日本髪との出会い」11/14(土)(於当館展示室)

〔結髪師〕林照乃氏

〔講師〕村田孝子氏(ポーラ文化研究所主任研究員)

午前11時～ ◎燈籠髷(とうろうぶん)

午後2時～ ◎横兵庫(よこひょうご)

「地髪で日本髪を結ってみませんか」当館ではこのキャッチフレーズのもと、結髪モデルの公募を行い、



結髪実演会風景1



結髪実演会風景2

多数の応募者の中から永宮ちかさんと谷川桐子さんの2人をモデルに選びました。永宮さんには歌麿の浮世絵にもよく描かれる髷の張り出しが透けて見える町娘風の燈籠髷という髪型を、谷川さんには、横兵庫という華やかな花魁の髪型を結っていただきました。

結髪師の林照乃氏が二人の髪を結う傍ら

で、ポーラ文化研究所の村田孝子氏が、髪にまつわるエピソードや結髪の詳細な技術について紹介しました。髷の張り出しがまるで魔法のように生み出されていくと、会場からは感嘆の声が沸き上がっていました。結髪後、永宮さんと谷川さんには、館内において同展覧会のPR活動を行っていただきました。

なお、実演会をご覧いただけなかった方々のために、記録映像を美術館講堂にて毎日上映し、当日の模様を再現しました。



左から 林照乃氏、永宮ちかさん、谷川桐子さん、村田孝子氏

平成22年度
福井県立美術館実技講座受講生募集要項

種 別	基 礎 講 座			専 門 講 座		
科 目	日 本 画	洋 画	彫 刻	日 本 画	洋 画	彫 刻
講 師	塩出 周子先生	坂井 敏之先生	嶽野 貴代先生	塩出 周子先生	小原 勉先生 荒木 道之先生	池田 雅彦先生
定 員	20人	30人	10人	20人	30人	10人
内 容	植 物	静 物	頭像(モデルをみながら)粘土で制作後石膏取り	風景・静物	風景・人物	胸像粘土で制作後石膏取り／頭像を主とした木彫
会 場	県立美術館実技研修棟			県立美術館実技研修棟		
期 間 (回 数)	平成22年4月3日～6月19日(土曜日) (計10回)			平成22年7月3日～平成23年1月23日(土曜日) (計25回)		
実 施 日	平成22年 4月 3日・10日・17日・24日 5月 8日・15日・29日 6月 5日・12日・19日			平成22年 7月 3日・10日・17日・24日・31日 8月 7日・28日 9月 4日・11日・18日・25日 10月 2日・ 9日・23日・30日 11月 6日・13日・20日・27日 12月 4日・11日・18日 平成23年 1月 8日・15日・22日		
時 間	午後1時30分～4時30分			午後1時30分～4時30分		
対 象 者	作品制作の初歩的な基礎を学びたい方			作品制作の経験があり、さらに専門的に学びたい方、 基礎講座経験者		
受 講 料	7,500円			19,000円		
募 集 期 間	平成22年3月1日(月)～3月20日(土)			平成22年5月1日(土)～5月31日(月)		

【応募方法】

- 必ず官製ハガキ(往復はがき)を使用し、右記の所定事項を記入の上、投函してください。
- 記入は、楷書で明確をお願いします。
- 電話による応募の受付はいたしません。

【応募条件】

- 16歳以上で県内に居住する者、県内に在学する者および勤務する者
- 受講歴1回以下の者(基礎、専門ともそれぞれ講座の受講は2回までとします。)

【応募者の決定】

- 応募者が定員を超えた場合は、抽選により決定します。
(新規応募者優先／結果は、締め切り後10日以内に連絡します。)

【問い合わせ先(あて先)】

福井県立美術館 実技講座係
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
TEL.0776-25-0452

【ハガキ(往)に記入する事項】

- ①講座種別と科目(例：専門講座、日本画)
- ②氏名(ふりがな)、性別
- ③年齢
- ④住所、電話番号(連絡先)
- ⑤専門講座の受講希望者は、経験の程度を簡単に記入してください。
(例：○年度基礎講座受講、○年、県・市美展入選、入賞)
また、ハガキ(復)の表には、本人の住所、氏名など宛名宛先を記入して下さい。

◎講師急病等のやむを得ない都合により、日程が変更または代替講師になる場合があります。

◎用具、材料は各自で用意していただきます(実費受講生負担)。

◎作品や道具類はその都度お持ち帰りください。

◎研修棟を各グループで利用していただくこともできます。(有料：詳細は県立美術館までお問い合わせください。)

【作品展日程】 平成23年2月6日(日)～2月13日(日) 搬入：平成23年2月5日(土)／搬出：平成23年2月13日(日) 16：00～17：00

この講座は福井ライフ・アカデミー事業に提携しています。

会員募集

福井県立美術館ボランティアの会では、平成22年度の新規会員を募集しています。美術に親しみながら、美術館の仕事を手伝ってみませんか？ご関心のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

入会資格

1. 美術及び美術館に関心をお持ちの方
2. 高校生以上の方
3. 月2回以上活動可能な方

活動内容

1. インフォメーションでの案内・情報の提供
2. 展覧会期間中の会場監視
3. 美術関係情報の整理等

会費

年額1,000円(通信費) (入会時に納めていただきます)

申込締切

平成22年2月28日(日)

※締切後でもお気軽にお問い合わせ下さい。

会員の期間

4月1日から翌年の3月31日までの1年間

※なお、入会にあたっては事前に、育成講座と体験学習を受けていただきます。

※育成講座受講ののち、活動に入っていただきます。

[お問い合わせ] 福井県立美術館 ボランティアの会事務局 TEL.0776(25)0452 FAX.0776(25)0459

福井県立美術館友の会の秋の見学会を12月2日、3日の一泊二日で行いました。今回は、人気スポットの香川県『直島』がメインということで、少し時期を遅らせての実施でしたが、とてもよいお天気に恵まれました。地中美術館では、普通の美術館では味わえないアートを一万歩以上も歩きながら、海と自然と、どこか懐かしい町並みの中で堪能しました。二日目は、広島県立美術館・ひろしま美術館と2館を巡り、ピカソやマティス・ルノワールなど20世紀を代表する多くの作家の作品と出会い、参加した36名の会員は、充実した鑑賞の時間を過ごせたと心地よい疲れを感じながら帰途につきました。



地中美術館(香川県・直島)

友の会 研修旅行

平成22年度会員募集

友の会とは...

福井県立美術館友の会は、美術に親しみ、美術鑑賞会などの催し物を通して親睦を深めようとする人たちの集まりです。

活動内容

1. 友の会ニュース・美術館だよりの発行、配布
2. 県外美術館見学会の実施(年2回)
3. 実技講座・美術講座の開催
4. 企画展鑑賞会の開催

特典

1. 常設展の無料入場。
2. 企画展無料入場券の配付。(会員の種類毎に枚数制限あり)
3. 県立美術館主催・共催の展覧会入場券の割引。
4. ミュージアムグッズの割引。

会費(年間)

【一般会員】 2,000円 【家族会員】 4,000円
【特別会員】 10,000円

会員の期間

4月1日から翌年3月31日までの1年間

(入会は随時可能です。)

◆ 申込み方法

郵便振替、銀行の口座振替を利用するか、または申込み用紙に会費を添えて、美術館窓口まで直接お申込み下さい。

◇ 郵便振替でお申込みの場合

振替用紙の通信欄に、

◎住所 ◎氏名 ◎生年月日 ◎電話番号 ◎職業

をご記入のうえ、次の口座に会費をお振込みください。

《口座番号 00700-8-41543》

◇ 口座振替の場合

「口座振替依頼書」の提出が必要となります。

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問い合わせください。

[お問い合わせ] 福井県立美術館 友の会事務局 TEL.0776(25)0452

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

3月8日(月)、15日(月)、3月29日(月)～31日(水)、4月1日(木)、12日(月)、26日(月)～28日(水)

貸館情報 [3/5～5/2]

3/5～3/7 ● みほとけの子ら写真展
3/19～3/22 ● 第11回芳香木目込人形展
3/24～3/28 ● 絵画グループ「写画壇」作品展
4/8～4/11 ● “グループ彩”
第8回水彩・スケッチ作品展
4/9～4/11 ● 第30回記念 鳳友会展

4/9～4/11 ● 第75回くらしの墨画展
4/9～4/11 ● 第3回こっとんくらぶの布遊び展
4/14～4/18 ● 第28回究展
4/14～4/18 ● 第18回グループS洋画展
4/14～4/18 ● 第9回水彩画を楽しむ会作品展
4/15～4/18 ● 第25回シルバー福井展

4/20～4/25 ● 『日曜画家の絵画展』
4/20～4/25 ● 「すてんどぐらす・オリビエ
第2回生徒作品展」
4/22～4/25 ● 第37回「失われゆく自然・
人間」展
4/29～5/2 ● 第24回白松会洋画展

岩佐又兵衛

近世の福井を代表する絵師に、江戸時代初期に個性的な作風で活躍し、岩佐派の祖となった岩佐又兵衛勝以（いわさまたべえかつもち）がいます。又兵衛は天正6年（1578）、戦国大名荒木村重の子として生まれたといわれています。しかし村重はその翌年に主君織田信長に背いたため、一族の多くが殺されてしまいます。しかし幼い又兵衛は奇跡的に追手から逃れ、母方の姓を名乗り、絵師として生きるようになります。

又兵衛が最初に活動したのは京都ですが、その詳細については明らかではありません。しかし京都の町と人々の様子を生き生きと描き出した京都時代の作、「洛中洛外図屏風」（東京国立博物館所蔵）からは、又兵衛がすでに一流の絵師であったことがうかがわれます。そして元和2年（1616）頃、又兵衛は京都から福井へと移り住み、60歳までの約20年間、この地で精力的に活動します。その後寛永14年（1637）には、福井を離れて江戸へと向かい、慶安3年（1650）に当地で73歳の生涯を閉じました。

又兵衛は特定の流派に属さず、古典作品や多くの流派を学んで独自の作風を創りあげました。その作品は人物画が中心で、日本や中国の古典を題材としたものから、同時代の風俗を描いたものまで多岐にわたっています。特に後者では新機軸を拓き、「浮世又兵衛」と呼ばれて人々の人気を博しました。又兵衛

が当時の絵画に与えた影響は大きく、後には浮世絵の祖として半ば伝説化されて語り伝えられるようになり、現在でも江戸時代絵画の重要な絵師の一人として、その存在を知られています。

又兵衛と福井の関わり

又兵衛は元和2年（1616）頃、越前北ノ庄（現在の福井市）に移り住みます。その背景には、ときの福井藩第二代藩主であった松平忠直の招きがあったのではないかとされています。又兵衛は約20年間に妻子とともに福井の地で過ごしていますが、この間、工房の主宰者として多くの弟子たちとともに、主に藩の注文による作品制作を行っていたと考えられます。この福井時代は、「金谷屏風」（12枚のうちの1図「龐居士図」は当館所蔵）や「山中常盤物語絵巻」（MOA美術館所蔵）といった代表作が数多く制作されており、又兵衛の才能が最も発揮された、生涯の中で特に重要な時代とされています。

又兵衛没後もその家族は福井にとどまり、子の勝重（？～1673年）、孫の陽雲（？～1708年）がともに福井藩の御用絵師として活動し、その子孫も福井藩士として岩佐家は幕末まで続きました。



「龐居士図」 当館蔵
福井の豪商金屋家に伝わった屏風絵の1図。中国唐時代の人物龐居士が竹籠を作る姿を描いています。

福井県立美術館 春の企画展案内

描かれた女性・天使たち 市民の愛したもうひとつの ヨーロッパ絵画

—バロックから近代まで

平成22年4月29日(木)～5月23日(日)



ヨーロッパの17世紀バロック時代から19世紀近代までの絵画を、当時の市民の目線からたどる展覧会。現在の美術史に残っている各時代の著名作家・作品とは一味違った、一般の市民が愛した、誰にも親しみやすく細部まで丁寧に描かれたサロン絵画58点を紹介する。

エルンスト・ベルガー
「庭で編物をする女性」